

## もくじ

はじめに	1
◎担当する子どもの個性を知りましょう	2
◎子どもの好きなこと・嫌いなことを知りましょう	3
◎合図ひとつで変わってきます	4
◎もの（グッズ・アイテム・ツール）ひとつで変わってきます	6
◎活動する場所の構造を把握しておいてください	7
◎距離感、これって案外重要です	8
◎子ども1人におとな2人だったら安全？	9
◎一日の反省会、大切にしましょう	10
◎なぜ？急に混乱してしまった…	11
◎ここまで書いたことが実践できたら、あなたはプロです	12

## 担当する子どもの個性を知りましょう (まず、障害特性)

レクリエーションに参加する子どもは、何らかのハンディを持った方です。診断名として「ダウン症（候群）」とか、「自閉症（候群）」、「精神発達遅滞」「ADHD」などなどいわゆるショウガイがあるはず。現場のプロとして仕事をする人の中にも、このショウガイを子どものせいにして「この子は自閉症だから〇〇がで

きないんだよね。」などという人がいます。

ショウガイというレッテルを貼られることで、得をする子ども（もちろん家族の方）はいません。



私達がやるべきことは、レッテルを貼ることではなく、子どもを良く知るための第一歩として、その障害特性を知ることです。

ノースカロライナ大学のTEACCHでは、自閉症を理解するには、自閉症の文化を知るのだ。という表現をしています。僕もたった1週間ですが、ノースカロライナ州のチャペルヒルにあるU.S.C.（成人の方が農作業を中心とした仕事と生活を営んでいらっしゃる）で研修をしました。



「すみません、僕英語が苦手なので…」という「気にするな、僕だって日本語は苦手だから。」と応えてくれたスタッフ。英和辞典（っていうのかな？）を持っていたその方は、「シージー（シンイチが僕の名前だけど、そういっているように聞こえた）、ボ・ウ・シ」と自分のベースボールキャップを指差したり、漢字を「素晴らしい！」と誉めてくれたり、僕と日本の文化を大事にしてくれました。

## 合図ひとつで変わってきます

合図で一番使われるのは、言葉です。言葉による合図は、

「短く」「ゆっくりと」「低い声で」「小さな声で」「具体的に」「肯定形で」<sup>1)</sup>が基本です。



たとえば、ある子どもが机の上に上がったとします。あなたはどのようにしますか？「危ないからだめ」「いつも言ってるでしょ」「何回言えはわかるの」などは、よく使われる否定的な言葉です。これらの言葉は抽象的で、いま何をすれば良いのかが具体的ではありません。

具体的な言葉は「おりて」の一言だけです。ゆっくりと近づいて行って、「おりて」と声をかけてください。そして、降りてくれたら「そうだね。」と言ってください。



長瀬 慎一

上越教育大学大学院障害児教育専攻

横浜市福祉局障害施設課

横浜やまびこの里 東やまたレジデンス・東やまた工房

誠愛リハビリテーション病院 リハビリ部療育課（福岡県大野城市）

中庭メンタルクリニック（福岡市）を経て

現在、発達しょうがい幼児の家庭教師「さるく」代表

---

藤村 出

著書に「やさしい自閉症のススメ」、「自閉症でOK」

自閉症協会の「自閉症の手引き」の監修などを手掛ける

施設の職員として自閉症の啓発に務める。

横浜で長く仕事に携わったが、平成15年4月から長野へ転出。

---

### ゼリービーンズ

横浜市鶴見区知的障害児者親の会「ひよこ会」の余暇活動グループ。

サポートして下さる方の力を借りながら、障害があっても自分らしく生きていくための力を育むことを目的としている。

連絡先 knyack117@hotmail.com 三好 靖子

## 「はじめてボランティアをする あなたへ」

長瀬 慎一 著

藤村 出 監修

表紙・イラスト Etsuko Kudou ©

発行日 2003年 3月30日（第1刷）

2008年 9月 1日（第3刷）

企画・制作 **ゼリービーンズ**

発行 社会福祉法人 横浜市社会福祉協議会

〒231-8482 横浜市中区桜木町1-1

横浜市健康福祉総合センター内

TEL 045-201-2090 FAX 045-201-8385